

2026年2月5日

公益社団法人 腐食防食学会  
会長 渡邊 豊 殿

## 監査報告書

私達監事は、公益社団法人腐食防食学会 定款第33条の規定に基づき2026年2月5日に腐食防食学会会議室にて、2025年1月1日から2026年12月31日までの事業年度の事業及び会計の監査を実施しました。その結果につき、以下の通り報告いたします。

### 1. 監査の方法と概要

監事は一般に認められた監査手続きに従い、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び事務局から職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、監査日当日は、事務局から事業の報告を聴取し、事業の状況を調査しました。また、事務局及び会計理事から報告並びに説明を受け、貸借対照表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記、付属明細書及び財産目録について監査を実施しました。

### 2. 監査の結果

- (1)学会事業は、事業計画に基づき、適正に運営されていると認めます。
- (2)事業報告書は、学会の事業運営の状況を正しく示していると認めます。
- (3)財務諸表は、必要な事項を正しく示していると認めます。
- (4)理事の職務執行に関し、不正な行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

しかし、議論において、今後の学会運営に対する「課題」をいくつかまとめましたので、下記にお伝えします。今後の参考にさせていただければ幸いです。

## 記

以上

### 1. 学術・産業基盤の拡大

当学会の特徴の一つは特定の支持業界が無いことです。このため腐食防食に関連した様々な人々が集い、横断的な活動ができます。その一方で、現場を掌握する業界との連携が弱くなると、腐食防食分野での求心力を失い学会が衰退するリスクを抱えています。新旧の

産業分野の技術者や新たな学術分野の学識者の継続的な取り込みは重要です。技術委員会と研究専門委員会での新規小委員会や分科会の戦略的な立上げや、既存委員会の運営強化が具体的な対応となるはずですが、予算など厳しい点はありますが、会員数増加や講演会参加者の増加、大学と企業の連携創出などメリットも期待できるので、ご検討いただければと思います。

## 2. 学生会員の定着

当学会は先生方の努力や、若手の受賞機会の拡充など大会運営の努力で一定の学生会員を維持できているようです。ただ、学生会員から正会員へ移行される方は少ないようです。他の学協会ですが、会員の異動は当該地域の支部に情報が提供され、支部活動への取り組みなどが行われています。当学会でも、大学などの教育機関、学会、支部（企業）が連携して、社会人になられた学生の方々のつなぎ止めを行い、彼らが就職後に正会員になるよう、一歩踏み込んだ活動を期待します。

## 3. DXの推進

デジタル化に関しては、シクミネットや Everiday が導入され会員の利便性向上が図られています。学会の財政基盤へ大きな寄与が期待できる学会誌の電子化も特定費用準備資金を活用して早期実現し、公益事業の一層の安定化を実現していただきたいと思います。これらのデジタル化の効果については広報/Web 委員会を中心に継続的な検証を行い、学会内で認識を共有することは重要と考えます。

## 4. OBの活用

上述の取組みの実現には人的資源が必要となりますが、現役メンバが学会運営に割ける時間は、働き方改革などもあり年々減少しています。業界からの人的支援も難しい状況です。学会のOB主体の腐食センターのメンバは当学会を古巣のように考え、豊富な経験、広い人脈、自由な時間をお持ちです。腐食防食は積分知の要素が強く、OBの特性と親和性も高く学会内の課題対応に現役の学会メンバの負荷軽減も兼ねて腐食センターとの連携も選択肢と感じます。50周年記念事業などでも、ご検討いただければと思います。

以上

公益社団法人 腐食防食学会  
監事 市場 幹之  
上村 隆之